

家庭学習のメニュー，やり方（5・6年）

☆日付け，開始・終了時刻，めあてを教科書やノートに書く。

国語

1【音読の習得の仕方】

- ① 国語の教科書の練習範囲を選ぶ。（3～5ページ）
- ② 1回読む。間違えた漢字や文章に印をつける。（1回目）
- ③ 間違いなしでもう一度読む。（2回目）
- ④ 誰かに「読み間違いなし音読」を聞いてもらう。（3回目）
（間違いなく読めた回数だけ，題名の下に○印を書いていく。）
- ⑤ 音読練習カードに書いたり，教科書にチェックをする。



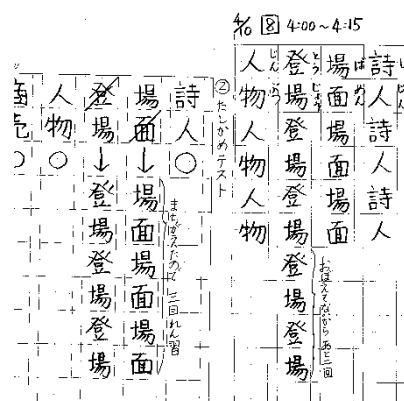
[練習のポイント]

- ・音読力は，各教科を学習するうえでの基礎となることである。毎日練習する。
- ・聞いてもらえる相手がいない場合，自分の好きな“マスコットに聞いてもらう”など相手意識をもつようにする。

2【漢字の習得の仕方】（漢字練習帳やドリルノートなどを2冊用意する）

〈パターン1〉

- ① 学習する場所の漢字を，思い出して書き，自分で採点をする。
- ② 正しい漢字を見て，丁寧に3回書く。
- ③ 確認する「自己テスト（たしかめ）」を漢字練習帳の後ろページに行う。
- ④ 間違えたり覚えていなかったりする漢字を3回練習する。（後ろページ）
- ⑤ 練習のふりかえりを，（ ◎○△）で行う。
時間があれば一言感想を書く。



〈パターン2〉

- ① 新出漢字の次に書かれている漢字の熟語を1つずつ書く。
- ② 練習のふり返りを，（ ◎○△）で行う。

[練習のポイント]

- ・漢字の読みやとめ，はね，文字の濃さなどを意識して，丁寧に書く。
- ・「自己テスト」を確実にする。
- ・未習得の漢字・用語等は，すぐに追加練習を行い，確実な習得を図る。
- ・最後に簡単なふり返りを行い，達成感を味わうようにする。

3 【文字力の高め方・・・ピカピカ視写】

- ① 国語の教科書をノートに1ページ分ていねいに視写する。
(時間をかけ最高にていねいな文字で書き写す。)
- ② 期間は学期始め, 1か月くらい。(4月・9月・1月)
- ③ きっちりした文字で書く。
- ④ 前回と比べての感想メモを書く。



[練習のポイント]

- ・最初の視写ページを見本として保管する。
- ・1か月くらい継続する。保管された最初のページと見比べながら継続練習をする。(始めのページと見比べて, 上達したことを意識させる)

4 【文字力の高め方・・・ローマ字】

- ① ローマ字表を見て, ローマ字を正しく写す。(今日はア行とか・・・a i u e o)
- ② ローマ字表を見ないで思い出して書く。
- ③ ローマ字表を見て, まちがえていたら正しいローマ字を3回書く。
- ④ アのつく言葉, イのつく言葉・・・オのつく言葉をローマ字で書く。
(アイスa i s u, いけi k e...) または, ローマ字ノートの問題を見てローマ字で書く。
- ⑤ ローマ字表か, こたえを見て, まちがえていたら正しいローマ字を3回書く。

[練習のポイント]

- ・徹底練習してすらすら書けるようにする。しばらく練習しないと忘れてしまうので, 1週間後にもう1度同じ問題に挑戦してみる。
- ・大文字も練習してすらすらになると, パソコンでけんさくするとき, ローマ字で入力できるようになる。

5 【暗記の練習】

- ① 暗記事項を選ぶ。(教科書の詩, 今月の詩, 自分で選んだ詩, 百人一首など)
- ② 覚えたらだれかに聞いてもらう。(どれだけ覚えられたか)
- ③ 唱えながら自学ノートに本文を写す。
- ④ 繰り返し練習する。
- ⑤ 自己確認テストをする。
- ⑥ 間違えていたら再度練習をする。
- ⑦ ふり返りを, 記号 (🌸 ◎○△) ですか, 練習の感想メモを書く。

[練習のポイント]

- ・自分なりに苦手なところを意識して練習を徹底する。
- ・覚えたことを他から認められることが習得への意欲となる。お家の人に聞いてもらったり, 学校でテストをしたりして, ゴールを意識させて取り組んでいく。

6 【文章力の高め方】

く「100マス作文」などに取り組む。(事前に学校で指導)く

- ① テーマ一覧からテーマを選ぶ。(1分間で)
- ② 3～5分間で文を書く。
- ③ 家の人に読んでもらう。サインを書いてもらう。

く新聞記者になったつもりで記事を書くく

- ① 新聞記事を選ぶ。
- ② 自分なりに要約してみる。
- ③ 思ったこと、考えたことなどを書く。



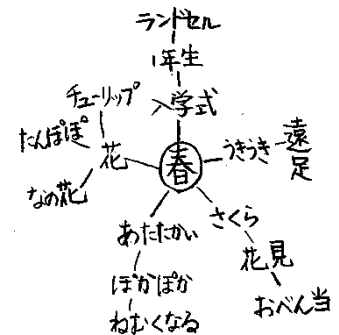
(出版 明治図書)

【練習のポイント】

- ・長い文章を書かせることは避ける。(書くことへの抵抗を少なくする)
- ・字のきれいさや丁寧さについてはあまり触れない。書くことに重点を置く。
- ・しっかり書かれている作文をみんなに披露し、見本を示す。
- ・100マスの作文プリントを事前に何枚も渡しておくのもよい。

7 【語彙を増やす練習】

- ① 国語の教科書や漢字ドリルなどの言葉を選び、イメージマップ手法等を使って、言葉の輪を広げる。
- ② 学校での体験活動の場面で知った言葉や国語の教科書の裏の「言葉の宝箱」を使い、短文作りを行う。
- ③ 常に手元に辞書を用意し、意味のわからない言葉を調べることを習慣づける。
- ④ 調べたら、付箋を貼っていく。
- ⑤ 練習のふりかえりを、記号(🌸◎○△)で行う。



【練習のポイント】

- ・語彙数は、経験・体験・交流等、生活の広がりと共に深く関わるので、様々な場面で子どもに、「この言葉どんな意味?」「言葉の意味教えて!」など、一緒に考えたり調べたりする機会をもつ。

《読解力をつけるために》

- ① 短文を読み、中心課題になっていることをつかむ。
- ② 話題に関係した例示を見つける。
- ③ キーセンテンスやキーワードをさがし、丸で囲んだり線を引いたりする。
- ④ 表題をつける。
- ⑤ 要点を、字数を決めて要約する。



算数

8 【計算練習方法】

- ① ドリルなどから10題練習する。
- ② 答え合わせをする。
- ③ まちがっている問題について、消しゴムで消さずに吹き出しに「あっ、そうか！」に続いてまちがったポイントを書く。まちがえた問題をもう一度最初から計算し直し、答え合わせをする。 ※続けて計算練習をする場合
- ④ まちがいポイントに気をつけて、次の10題練習をする。先の10題と同じように答え合わせと、まちがいポイントを記入し、計算をし直す。
- ⑤ ふり返りを、記号( ◎○△)でするか、練習の感想メモを書く。

[練習のポイント]

- ・「練習のねらい」を書き、練習の目的を意識する。
- ・練習タイムを計り、記録をとり、効果を意識する。
- ・答え合わせは、自分で行う。
- ・まちがった計算では、「あっ、そうか！」の吹き出しを書き、そこに間違えた理由を書き、再度、練習する。

9 【文章題練習方法】

- ① 教科書やプリント、テストなどから挑戦する文章題を3～5題選ぶ。
- ② 「たずねていること」、「わかっていること」、「単位」に線を引く。(色分けなど)
- ③ 問題場面をイメージし、数字や言葉の関係図をメモ書きする。
- ④ イメージ図や線分図・表など必要な図などを書く。
- ⑤ 式を立て、答えを出す。
- ⑥ 答えの書き方が問題に合っているか確認する。
- ⑦ 答え合わせをする。間違いを吹き出しに書く。もう一度式を立て直す。
(正解ならば次の問題へ)
- ⑧ ふり返りを、記号( ◎○△)でするか、練習の感想メモを書く。

[練習のポイント]

- ・「たずねていること」「分かっていること」、イメージ図や線分図等、文章題の解き方については、日常の授業の中で指導しておく。
- ・イメージ図をもとに、公式を活用するなどして立式する。
- ・答え合わせは、自分で行う。(自力解決の充実感をもつ)
- ・家族に計算の仕方などを説明することも力をつけることになる。
- ・ときには、いじわる問題(条件不足・条件過多の問題)を作成して取り組ませる。

社会・理科

10 【書き込み読み練習方法】

- ① 教科書の練習範囲を選ぶ。(3～5ページ)
- ② 大切なところにアンダーラインを入れながら読む。(1回目)
- ③ 事実・理由・キーワードなどを丸で囲み再度読む。(2回目)
- ④ 必要に応じて矢印や線を使って書かれていることの関連を囲む。
- ⑤ アンダーラインや囲みを基にノートにまとめる。

[練習のポイント]

- ・学習した範囲を音読練習する。
- ・書くことによって、定着を図る。

11 【暗記の練習方法】

- ① 暗記事項を選ぶ。(大切なことば、新出言葉など)
- ② 覚えたらだれかに聞いてもらう。(どれだけ覚えられたか)
- ③ 唱えながら意味や本文を自学ノートに写す。
- ④ 繰り返し練習する。
- ⑤ 自己確認テストをする。
- ⑥ まちがえていたら、再度練習をする。
- ⑦ ふり返りを、記号(🌀 ◎○△)でするか、練習の感想メモを書く。

[練習のポイント]

- ・自分なりに苦手なところを意識して練習を徹底する。
- ・覚えたことを他から認められることが習得への意欲となる。聞いてもらえる相手がいないと意欲が湧かない。お家の人に聞いてもらったり、学校でテストをしたりして、ゴールを意識させて取り組んでいく。



大切な親の目

1 できたことをほめる

2 頑張りを目に見える形で残す

3 関心をもっているというメッセージを送る

復習の仕方

- ① ノート整理（授業での不足分を補う。考えをまとめ直す）
- ② 用語の整理（用語を整理したり，意味を書き加える）
- ③ 読み返す（授業で学習した範囲を読み返し，キーワードおさえる）
- ④ 解き直す（授業での問題を解き直してみる。解法のポイントを整理する）
- ⑤ 質問の整理（理解できなかったこと，疑問点を書き出す）

〔ポイント〕

- ・ 社会や算数，理科を復習すると効果的
- ・ 問題の解き直しや見直し，読み返しなどの学習の整理が大切
- ・ 記憶すべき言葉の整理
- ・ あいまいな点や疑問点の整理

【難問に挑戦しよう】【長文読解に挑戦しよう】

（金曜日の課題）

- ① 問題集を選ぶ。
 - ② 難問問題集用のノートを準備する。
 - ③ 授業の進行に合わせて，挑戦するページを選び出す。
 - ④ 解答解説欄を見えないようにして，自力でチャレンジする。
 - ⑤ 模範解答と解説に目を通す。
 - ⑥ 目の付けどころ，考えの進め方などにアンダーラインを入れ，確認する。
 - ⑦ 理解できない問題を付箋などを書いて，先生に聞く。
- 家族といっしょに解いてみよう！ 友達といっしょに解き合ってみよう！

脳がめざまます！

問題を練る力が
つきます！

頭の回転が
よくなります！

「できてよかったね！
やればできるね。」声かけ
よろしくお願いします。



【記述力を高めるために】

◇事柄・事実の記述に関しての方策

- ① 「前提」と「結論」をはっきりさせる。
- ② まず「前提」となることをあげ、その上で「結論づけ」を記述する。

◇方法・手順の記述に関しての方策

- ・「どのような考えのもとで、どのようにするのか」
→ 「〇〇を用いて、△△する」と説明する。
- ・「求めたいことのために、どのようにするのか。」
→ 「〇〇するために、〇〇を求めたいために、△△する」と説明する。
- ・「どんな考えを使って、どのようにするか。」「何を求めるために、どのようなやり方をするのか。」

◇理由の記述に関しての方策

- ・「〇〇だから、△△です。」
「根拠になること」と「成り立つ事柄」とを明確に意識して記述する。



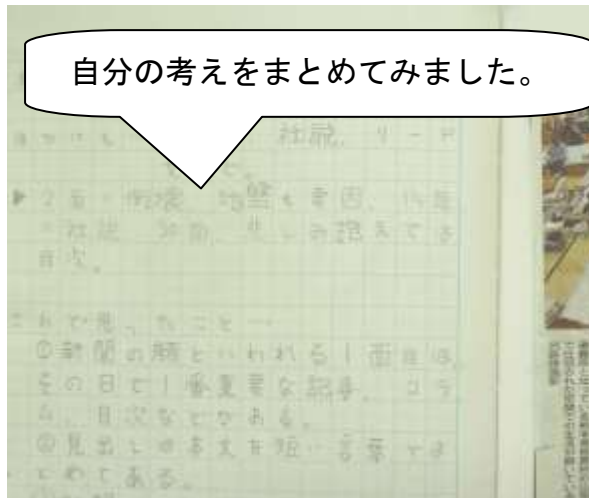
作戦

模範解答・まる写し作戦

- ① 発展・過去問題に挑戦する。
- ② 自力で理由などを書く。
- ③ 模範解答を写す。
- ④ 自力記述と模範記述を比べる。(違いを見つける)
- ⑤ 模範解答をていねいに読む。
- ⑥ 模範解答をまる写しする。



他のメニュー



自分の考えをまとめてみました。



気になる記事を切り抜きました。



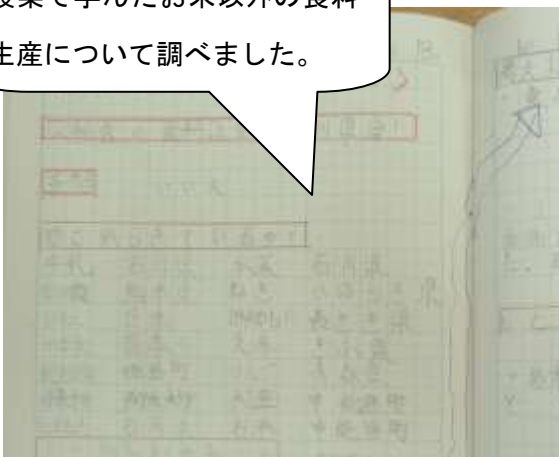
新聞を読むとこんな力が身に付きます！

→ 情報を処理する力
読解力や思考力
社会に対して考える力
文字に対する慣れ

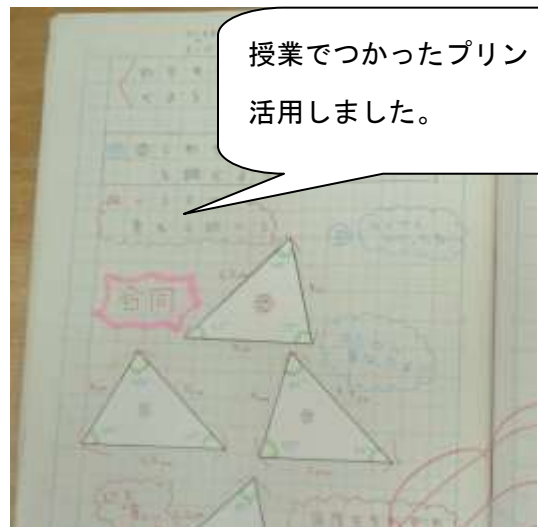
- ・ 難しい漢字があっても読んでみよう
- ・ 文章を書き写してみよう
- ・ 字数を決めて要約してみよう
- ・ 見出しをつけてみよう
- ・ 自分の意見を書いてみよう



授業で学んだお米以外の食料
生産について調べました。



授業でつけたプリントを
活用しました。



こんなこともやってみよう！

- ・ 短歌, 俳句の作成や視写
- ・ 古文, 漢文の作成や視写
- ・ おすすめの本の紹介
- ・ 作家活動（物語づくり）
- ・ 取り扱い説明書づくり
- ・ 歴史上の人物づくり
- ・ スイーツ調べ
- ・ 動物調べ
- ・ 外国文化調べ
- ・ 好きなもの紹介
- ・ スポーツの作戦
- ・ 英単語調べ
- ・ 料理・レシピ作り

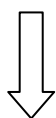
高学年の家庭学習時間

まずは、**10分！**すぐにクリア！

次は**40分！**



次は、**50分！**がんばろう！



できるかも！60分！

これだけでできれば中学への準備OK！



家庭学習で

- ☆ 生活時間を有効に、計画的に使うことができる子どもになります
(学習や読書などの時間がテレビやゲームに費やす時間より多い)
- ☆ 家庭学習の習慣や方法を身に付けた子どもになります
- ☆ 基礎的・基本的な学習内容を身に付けた子どもになります
- ☆ むずかしい課題でも立ち向かおうと頑張る子どもになります



進んで勉強する力をつける

家庭学習 ガイドブック

～楽しい勉強の仕方が分かるよ！～

2017年4月

中能登町学力向上推進委員会